

国立公園満喫プロジェクトを進める上での考え方 ー有識者会議の議論を踏まえてー

◎日本の国立公園の特徴

- ・国立公園が我が国の自然保護の根幹を支える制度として果たしてきた役割は大きく、今後も依然として大きな役割を果たしていく
- ・日本の国立公園は、区域の中に人が住み、自然と長い時間をかけて付き合いきた地域の暮らし、そこで育まれた文化や歴史が根付いており、こうした自然と人間の共生の姿こそが世界に誇る日本のナショナルパークであると言えるのではないか
- ・国立公園は制度の創設経緯からインバウンドを意識したものであり、こうした歴史的経緯を踏まえて今の時代にあった新たな国立公園の姿を考えることが必要

◎基本的な視点

■最大の魅力は自然そのもの

- ・国立公園はそこにある豊かな自然環境が適切に保全されていることこそが魅力であり、地域の観光産業をはじめとする様々な生業を支える資源である
- ・このため、新たに大きな開発を行うのではなく、マイナス要因を取り除くなど、自然そのものの魅力を生かすことにより利用の推進を図ることが重要

■暮らしとともにある国立公園

- ・日本の国立公園は観光地としての価値だけでなく、人が住む場所としての価値がある
- ・人が住むことにより、自然とのつきあいの中で積み上げられてきた文化や歴史がその地域の魅力となる
- ・地域の観光業者やそれを支える様々な地域の産業が経済的に持続可能となるモデルをつくりあげることが必要

■体積で考える

- ・観光客数だけでなく一人当たりの消費額を掛け合わせた体積（観光消費額全体）で考えることが必要
- ・消費額を引き上げていくためには、いかに滞在させるかが重要であり、そうした観点でアクティビティを充実させ、自然をお金に換えていく

■多様な階層に対応した施設・サービス

- ・多様な階層のニーズに対応するバラエティのある施設やサービスを提供することが重要
- ・高品質高単価のサービスがあることで、カスケード効果により地域全体の消費額

を引き上げることにつながる

- ・利用者を制限しながら高付加価値の特別な体験を提供するエリアと、マス利用を適切にコントロールすることで自然環境及びサービスの質を維持していくエリアのゾーニングが必要

■国内需要も大事

- ・人口減少が進む中、国内旅行消費額は今後大きくは伸びないが、シェアとしては圧倒的に多い
- ・インバウンド対策を意識することにより、外国人旅行者の新たな視点による魅力の発見、ユニバーサルデザインの浸透など、観光地全体のサービス向上につながる効果が期待

■広域的な視点で考える

- ・利用者の目線から国立公園を核として広域的な観光圏を形成していくという視点が重要
- ・国立公園へのアクセスルートはまっすぐ最短距離ではなく、移動中も自然と共生する暮らしが垣間見える多様なルート設定が考えられる
- ・温泉や食などと一体となったルートやメニューを充実させ、地域経済を活性化させることが重要

◎具体的な課題

■利用者目線の情報発信とホスピタリティの向上

- ・専門的で難解なガイダンスを排し、利用者が楽しみながら教養を高めることができるような内容とするよう検討
- ・情報発信の技術的な手法（IT 機器の活用等）に頼るのではなく、情報発信の内容の質を高めることの方が重要
- ・多言語表記の際は、日本語の翻訳ではなくネイティブのライターが書き下ろすなど、その言語を母国語とする外国人が読んで違和感のない内容とすることが必要
- ・展望台やビジターセンターなど美しい景色を眺められる場所でゆっくりと休憩できるよう、カフェやベンチなどを整備することが必要
- ・適切な案内表示やアクティビティの情報発信など、利用者が国立公園に来たと実感できるような質を維持していく

■民間活力による利用者層に対応した宿泊施設、キャンプ場の整備

- ・高い交通費と安い宿泊施設の不マッチが生じている
- ・民間活力を生かして、自然環境に配慮した小規模で上質な宿泊施設の誘致を検討

- ・過去に整備されたキャンプ場は、主に集団生活の体験を意識した作りとなっており、現在の個人旅行客向けのニーズに対応できていない
- ・民間のノウハウを生かして現在のニーズにあったキャンプ場へのリニューアルを進めることが必要
- ・宿泊施設と連携したアクティビティの提供、情報発信も重要

■引き算の景観改善

- ・「衆」から「個」へと変化する観光客のニーズに対応できずに取り残された廃屋などのマイナス要因を取り除くことでプラスに転じていく引き算の景観改善を進める
- ・統一性を欠き乱立する案内看板等については、統一したデザインコードにより整理統合を図る

■利用料等を保全に還元する仕組み

- ・適切な利用料等を徴収することで、自然環境への負荷を抑制するとともに、保全やサービス向上のために必要な資金を確保する仕組みをつくる

第5回有識者会議(5/12)での主なご意見

- 1000万人目標達成のため、公園全域ではなく一部地域がやる気があるところも取り組んでもらうべき
- マーケティングを無視した地元のアイデアを採択するようでは成功確率は低くなるので、チェックが必要
- 富士箱根伊豆、支笏洞爺、中部山岳の3つは特に訪日外国人利用者数が多く、選定8公園に準じた取組をすべき
- 多言語化対応程度のことはずべての公園で進めればよいが、選択と集中により1つでもよいので世界に誇れる日本の国立公園をまずは作るべき
- 優れたものをしっかり育てていくという選択と集中をしつつ展開していくべき
- 海外の人はヨセミテなどにも来た上で日本の国立公園にも来る。そうした人がっかりされないような整備が必要



- 選定8公園以外においては、目標達成に向けて効果的かつ積極的な提案のある地域について、海外マーケットに詳しい事業者などのアドバイスも得ながら、コンパクトで効果的な取組を展開事業として支援
- 選定8公園、展開事業ともに、利用者数の増加を主に目指す地域、質の向上を主に目指す地域等の地域ごとの戦略を立てながら、メリハリをつけて事業を実施（選定8公園の中でも優れた取組を優先的に推進）
- 既に利用者数の多い3つの国立公園については、国立公園としての質を確保する取組を、関係者と連携しつつ推進

現状

- 先進的、集中的に取組を行う公園【8公園】
 - ・公園単位で地域協議会設置
 - ・総合的な施策を展開

- 選定要望をしたその他の公園【8公園】
 - ・公園内の限定した地域において施策を実施予定

- 上記以外の公園【18公園】
 - ・基盤整備や海外発信等を中心に推進

今後

- 先進的、集中的に取組を行う公園【8公園】
 - ・地域協議会を継続し、ステップアッププログラムに基づく総合的な施策を展開

- 個別のエリア、テーマ等で集中的に取組を行う公園
 - ・公園内の限定した地域、または、特定のテーマを持った事業等、熱心な自治体等と連携したコンパクトで効果の高いソフト事業を中心に実施

- 上記以外の公園
 - ・国立公園全体の共通の取組として、基盤整備（WiFi整備、多言語対応、ユニバーサルデザイン化等）や海外発信等を中心に推進



個別のエリア、テーマ等で集中的に取り組む 公園について

満喫プロジェクト推進のポイント

- 日本の国立公園の魅力は豊かな自然 + 人々の暮らしや文化
- これらに関係する人々の協働が重要であり、地域協議会による地域の一体感・盛り上がりが推進の原動力となっている



第4回有識者会議(2/9)での主なご意見

- 1000万人の目標達成のためには、選定 8 公園だけでなく、すでにたくさんお客さんに来ていただいているところを改善しないと目標達成は厳しい
- 熱心な都道府県、市町村と連携し、個別のエリア、ビューポイントに限定した取組も重要
- 公園外も含めた広域的なプランニングが必要
- 適切な多言語化等、外国人の視点に立った基盤整備が必要



満喫プロジェクトによる効果的な取組

先行する 8 公園での取組を踏まえ、目標達成に向けた即効性があり効果的と考えられる取組は以下のとおり

- ・誘客のターゲットを明確にし、交通事業者や海外の旅行会社等と連携した戦略的なプロモーションの実施
ex. 既存の主要観光ルートから一歩足を伸ばしてもらうための誘客戦略等
- ・外国人目線での魅力的な体験プログラム及びツアーの開発
ex. 地元で活動している外国人等による里山文化体験開発等
- ・外国人目線に立った二次交通/情報発信の改革
- ・限定エリアを対象とした景観デザインの統一ルール策定



選定 8 公園の取組を推進しつつ、その成果を活かし、即効性のあるソフト事業を中心とした自治体や民間事業者等との連携プロジェクトを他の公園でも実施

※ハード整備については、ソフト事業に深く関連するものに限って、予算の範囲内で一部実施

個別のエリア、テーマ等で集中的に取り組む 公園について

今後展開する事業に必要な事項

以下のいずれかに該当すること

- 現在の訪日外国人来訪者数が多いこと
- 大都市圏等の主要利用拠点からアクセスがしやすいこと
- 公園外も含めた広域連携や官民連携により効率的・効果的な成果が見込まれること



以下のすべてに該当すること

- ①国立公園管理上の課題に適切に対応しており、自然環境を損なうことのないよう十分な配慮がなされていること
- ②主体的に取り組む意志があり、自主的な予算の確保や関係者との連携体制の構築がなされていること
- ③利用者数又は消費額単価等の向上が期待でき、2020年の数値目標及び目標達成に向けた具体的なスケジュールが示されていること
- ④プロジェクトのエリアやテーマが絞り込まれていること（総花的なプロジェクトでないこと）

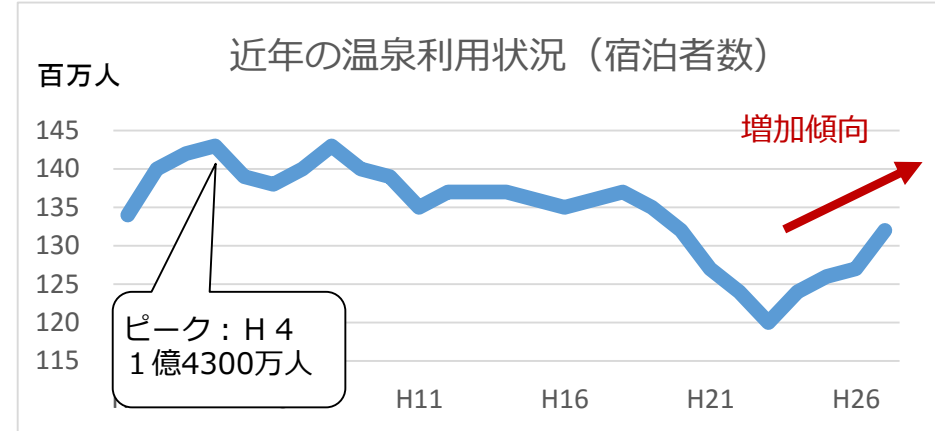


自治体等の提案を踏まえ、環境省が上記必要事項に基づき
「国立公園満喫プロジェクト展開事業」
として位置づけ、自治体等と連携してプロジェクトを実施

① 温泉地のポテンシャル

■ 温泉の利用状況

- 全国には約3千カ所の温泉地が存在
- 平成28年度の利用者約1億3,200万人
- 近年、国内外からの宿泊者が増加傾向
- 観光地としてのポテンシャル大



■ 温泉地の魅力

- 訪日外国人が次回日本でしたいこととして「温泉入浴（第4位）」を上げるなど 温泉の魅力は高い。
- 温泉地には、温泉に加え、上位にある、食、自然・景勝地などの観光資源も存在。

訪日外国人が次回日本でしたいこと

1位	日本食を食べること	58.0%
2位	自然・景勝地観光	45.4%
3位	ショッピング	45.2%
4位	温泉入浴	42.1%
5位	繁華街の街歩き	30.7%

観光庁「訪日外国人消費動向調査」(2016年版)より

国立公園と温泉地の相互連携

②温泉地に関する取組

■全国温泉地サミットの開催

温泉地の首長が集まり、意見交換を行い、連携を強化



サミット会場の様子



要望書の手交



サイドイベントの様子

■民間との協力

「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」※への協力等

※ 温泉地を起点に地域の食・自然・歴史をめぐるツーリズム



記者発表会見の様子



ウォーキングの様子



地域の素材を活かした食



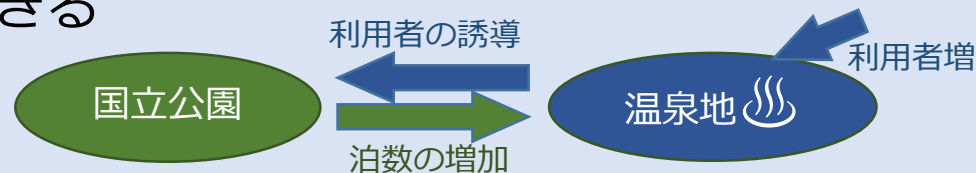
国立公園と温泉地の相互連携

■ 今後の事業展開

- 国立公園への誘客に効果が高い温泉地において、国立公園へ誘導するためのモデル事業（温泉地発着の国立公園モデルコースの作成等）を実施
- 外国人にも関心の高い温泉の効能等、温泉の基礎情報等を多言語にて作成・発信
- 温泉の歴史、湯治文化や温泉旅館等の魅力等の世界に誇れる「ONSEN文化」の積極的な情報発信
- 国立公園関連温泉地と企業やNPO等の多業種による協働の契機の創出

■ 誘客促進

- 国立公園内及び周辺には多くの温泉地あり
- 連携した取組により、温泉地から国立公園へ誘導、国立公園のプログラム充実による温泉地での泊数増加などの相乗効果が期待できる



阿蘇・くじゅう国立公園内外の温泉地

③自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に関する有識者会議の開催

1. 目的

温泉地の活性化を目的として、温泉資源はもとより我が国の自然や景観、まちなみ、歴史文化、食等の地域資源を活かしながら温泉地の総合的な魅力向上を図るために必要な事項等を整理検討し、「自然等の地域資源を活かした今後の温泉地の活性化に関する提言」として取りまとめる。

2. 有識者

阿部宗広	(一財)自然公園財団専務理事
大西倉雄	国民保養温泉地協議会会長(長門市長)
久保田美穂子	亜細亜大学 経営学部 ホスピタリティ・マネジメント 学科 准教授
桑野和泉	(一社)由布院温泉観光協会会長
四宮博	洞爺湖温泉利用協同組合専務理事
下村彰男	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
早坂信哉	(一財)日本健康開発財団 温泉医科学研究所所長
ハリス・マイケル・ジョン	(株)キャニオンズ 代表

(五十音順、敬称略)

3. 開催経過

第1回有識者会議	平成29年5月31日(水)10:00~12:00
第2回有識者会議	6月29日(木)13:30~16:30
第3回有識者会議	7月20日(木)10:00~12:00(とりまとめ)

温泉地活性化に向けて ～「新・湯治」の推進～

温泉 .. 国民共有の資源であり、温泉地の核となり、将来世代へ引き継ぐもの
日本は温泉や温泉地が持つチカラを十分に活用していないのではないか

古くからの
温泉地に長期滞在し、入浴して
病気を治療する「湯治」

団体旅行としての温泉地の発展
療養や保養の場としての衰退

- ストレス社会、高齢化社会であり、ワークライフバランスが求められる現代において、社会全体として、リフレッシュや健康長寿のための場づくり、仕組みづくりが重要
- 官民一体となって地方創生、観光立国（インバウンド対策）を推進

**新・湯治
とは**

温泉地の役割を見直し、「新・湯治」を提案

エビデンスも重視!

- 温泉入浴に加えて、周辺の自然、歴史・文化、食などを活かした多様なプログラムを楽しみ、地域の人や他の訪問者とふれあい、心身ともに元気になること
- 年代、国籍を問わず楽しめる
- 長期滞在を行うことが効果的

新・湯治推進プラン（有識者会議提言）

「新・湯治」を提供する場としての温泉地のあり方、環境省や関係機関に求めること

楽しく、元気になるプログラムの提供

- 泉質、地域資源を活かしたプログラムの提供
- 多様な温泉地間の連携による情報発信 等

温泉地の環境づくり

- 外湯めぐりの充実といった「にぎわいの創出」
- 周辺の自然環境等の地域資源を一体的に評価し、持続的な利用 等

推進体制の構築等

- 地域会社設立や観光組織（DMO等）の活用による体制づくり、財源確保等

「新・湯治」の効果の把握と普及、全国展開

- 統一フォーマットの提示等により、温泉地全体の療養効果等を科学的に把握し、その結果の情報発信 等

国民保養温泉地が中核的・先進的な役割

環境省の取組

- 新・湯治推進プランの実現のため、
- 「新・湯治」の効果在全国で把握する事業の展開
 - 国立公園満喫プロジェクトと連携した取組の検討
 - 温泉熱有効活用のためのガイドライン策定 等に取り組む。

※ 29年度内にロードマップを示す予定

国立公園別訪日外国人利用者数推計値等

参考資料1
第4回有識者会議資料

当推計は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の調査票情報を利用し、算出したもの。
「訪日外国人消費動向調査」は国籍・地域毎に回収目標数の抽出率が異なるため、母集団構成に合わせることを目的として、本年より、四半期別および国籍・地域別ウエイトバック集計を行う方法に見直した。(平成27年分も再計算している。)

公園名	訪日外国人								関係都道府県
	H27				H28【暫定値】				
	推計実利用者数 *1(千人)	標準誤差率 (%)	アジア系 (%)	欧米系 (%)	推計実利用者数 *1(千人)	標準誤差率 (%)	アジア系 (%)	欧米系 (%)	
1 利尻礼文サロベツ	5	31.6%	-	-	14	21.1%	76.2	23.8	北海道
2 知床	21	15.4%	81.0	19.0	28	14.5%	97.1	2.9	北海道
3 阿寒	63	8.9%	98.4	1.6	58	10.2%	97.7	2.3	北海道
4 釧路湿原	34	12.0%	79.7	20.3	27	15.0%	87.3	12.7	北海道
5 大雪山	64	8.8%	96.9	3.1	83	8.5%	97.9	2.1	北海道
6 支笏洞爺	688	2.6%	92.3	6.0	827	2.7%	94.9	5.1	北海道
7 十和田八幡平	7	26.7%	-	-	22	16.6%	86.4	2.5	青森県、岩手県、秋田県
8 三陸復興	10	22.4%	65.0	35.0	16	19.2%	62.4	37.6	青森県、岩手県、宮城県
9 磐梯朝日	0.5	100.0%	-	-	4	39.4%	81.9	18.1	山形県、福島県、新潟県
10 日光	190	5.1%	56.4	35.0	241	5.0%	59.7	27.7	福島県、栃木県、群馬県
11 尾瀬	-	-	-	-	2	53.2%	100.0	0.0	福島県、栃木県、群馬県、新潟県
12 上信越高原	214	4.8%	81.9	16.2	265	4.7%	84.4	14.9	群馬県、新潟県、長野県
13 秩父多摩甲斐	19	16.2%	60.5	18.4	22	16.5%	83.4	16.6	埼玉県、東京都、山梨県、長野県
14 小笠原	-	-	-	-	0	133.5%	100.0	0.0	東京都
15 富士箱根伊豆	2,341	1.4%	87.5	9.2	2,577	1.4%	84.5	11.4	東京都、神奈川県、山梨県、静岡県
16 中部山岳	338	3.8%	68.3	23.3	351	4.1%	67.2	23.6	新潟県、富山県、長野県、岐阜県
17 妙高戸隠連山	8	24.2%	-	-	6	32.5%	29.9	70.1	新潟県、長野県
18 白山	3	40.8%	-	-	1	66.3%	68.1	31.9	富山県、石川県、福井県、岐阜県
19 南アルプス	-	-	-	-	1	93.6%	100.0	0.0	山梨県、長野県、静岡県
20 伊勢志摩	33	12.2%	79.1	20.9	61	9.9%	84.9	11.1	三重県
21 吉野熊野	53	9.7%	72.9	19.6	59	10.1%	76.2	19.7	三重県、奈良県、和歌山県
22 山陰海岸	32	12.4%	61.5	32.3	50	10.9%	84.0	16.0	京都府、兵庫県、鳥取県
23 瀬戸内海	296	4.1%	67.7	26.1	310	4.0%	61.0	32.3	大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、大分県
24 大山隠岐	6	28.9%	-	-	14	20.8%	85.5	14.5	鳥取県、島根県、岡山県
25 足摺宇和海	0.5	100.0%	-	-	5	35.4%	59.9	40.1	愛媛県、高知県
26 西海	55	9.5%	82.7	17.3	74	9.0%	66.8	24.6	長崎県
27 雲仙天草	28	13.2%	87.7	5.3	29	14.4%	82.1	2.8	長崎県、熊本県、鹿児島県
28 阿蘇くじゅう	682	2.7%	97.5	1.4	675	2.9%	99.0	0.7	熊本県、大分県
29 霧島錦江湾	71	8.3%	90.9	6.3	79	8.7%	97.0	3.0	宮崎県、鹿児島県
30 屋久島	10	22.4%	25.0	55.0	17	19.0%	59.5	26.0	鹿児島県
31 奄美群島	-	-	-	-	-	-	-	-	鹿児島県
32 やんばる	-	-	-	-	-	-	-	-	沖縄県
33 慶良間諸島	-	-	-	-	-	-	-	-	沖縄県
34 西表石垣	12	20.4%	58.3	25.0	14	20.8%	73.2	26.8	沖縄県
合計(選定された8公園)	1,052	-	88.8	8.7	1,150	-	89.4	7.4	
合計(各公園計)	5,284	0.8%	85.0	11.5	5,932	0.9%	84.3	12.1	
合計(実利用者数)	4,902	0.9%	86.7	10.1	5,457	0.9%	85.6	11.3	
訪日外客数全体 *2	19,737	-	16,646	2,985	24,039	-	20,103	2,956	

…選定された8公園

…参考値 *3

*1 推計実利用者数:当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用しても1人と数える。また、合計(選定された8公園)及び合計(各公園計)は、1人の利用者が2つの公園に訪れると2人と数え、合計(実利用者数)は、1人の利用者が複数の公園を訪れても1人と数える。千人単位で四捨五入している。
*2 訪日外客数全体:出典:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」 ※平成28年1月-10月の数値は暫定値、11月、12月の数値は推計値。
*3 標準誤差率が30%以上の公園については、サンプル数が少なく信頼性が低いので、参考値とする。取り扱いには十分注意し、転載や二次使用の際には、信頼性の低い参考値であることを明記し、その旨を理解して使用すること。

※「慶良間諸島国立公園」及び「やんばる国立公園」は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択肢コードに該当する地点が無かったため、推計対象外。
※平成27年データの「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」「南アルプス国立公園」は、標本数が0(欠損)のため推計不可として扱った。

国立公園満喫プロジェクト有識者会議
委員名簿

<敬称略・五十音順>

【学識者】

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

わくいしろう
涌井史郎（東京都市大学環境学部特別教授） ※座長

【観光関係者】

いししいたる
石井 至（有限会社石井兄弟社社長）

えざききく
江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

ほしのよしはる
星野佳路（星野リゾート代表）

【ジャーナリスト・ライター】

のぞえ
野添ちかこ（温泉と宿のライター）



山と共に
～人と自然がつながる社会へ～

第2回「山の日」記念全国大会 in 那須 2017



8/11 国民の祝日 「山の日」

—— 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する日 ——

スケジュール

8月10日(木)

16:30 - 17:30

レセプション

場所 ホテルエコピナル那須

8月11日(金)祝

9:15 - 10:40

記念式典

場所 那須町文化センター

11:00 - 12:00

シンポジウム

場所 那須町文化センター

11:00 - 19:00

歓迎フェスティバル

場所 余世川ふれあい公園

大会の期間

平成29年8月10日(木)・
11日(金・祝)の2日間

※連携イベントは8月11日を中心とする
夏休み期間をメインに春季から秋季にかけて実施

開催地

栃木県那須町

※連携イベントは県内各地で開催

全国大会を盛り上げる様々なイベント等が栃木県内各地で開催されます。
今年は、ぜひ「とちぎの山」にお出かけください。

協賛

ホテルサンバレー那須

足利銀行

下野新聞社

JForest 栃木県森林組合連合会

とちぎテレ

mont-bell

好日山荘

清水建設

ドコモCS栃木支店

山と水と緑の会

VERY GOOD LOCAL とちぎ

主催 / 第2回「山の日」記念全国大会実行委員会



本物の出会い 栃木

「本物の出会い 栃木」デザインレーションキャンペーン 2018 4/16/30

触覚

木のぬくもりや湧水の冷たさを
肌で体感

視覚

雄大な自然が織りなす
四季折々の原風景を楽しむ

五感で満喫「とちぎの山」

聴覚

野鳥のさえずり、小川のせせらぎ
木々のさざめきに耳を傾ける

嗅覚

マイナスイオンに満ちた森林の香り、
花の香り、温泉の香りですリラックス

味覚

豊かな自然が育んだ、
食の恵みに舌つづみを打つ

日時		内容	
8月11日 (金・祝日)	9:15~10:40	● 記念式典	プログラム メインアトラクション 【小林綾子(女優)、加藤登紀子(歌手)ほか】 場所 那須町文化センター
	11:00~12:00	● シンポジウム	プログラム パネルディスカッション 【小林綾子(女優)、野口健(登山家)ほか / コーディネーター:萩原浩司(山と溪谷社)】 場所 那須町文化センター
	11:00~19:00	● 歓迎フェスティバル	プログラム ステージイベント・参加体験イベント・出展ブース 場所 余笹川ふれあい公園



第2回「山の日」記念全国大会の大会理念

我が国は、国土の約7割を山地が占める「山の国」です。

山は、命の源となる水を生み、森林や田畑を潤し、海を育てます。そしてまた、新鮮な大気が作られ再び雨となって山にもたらすといった、自然のサイクルの根幹を担っています。古来より、山は畏れと敬意を持って尊ばれる存在であると同時に、人間社会にとって恩恵の源として存在しており、これら山の恩恵は、次代を担う子どもたちに着実に引き継いでいかなければなりません。

そこで、本年8月に本県那須町で開催する第2回「山の日」記念全国大会では、「山の日」の意義である『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝することへの理解促進はもとより、山の事故や自然災害への対応、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことの大切さについて広く浸透を図ります。』

第2回「山の日」記念全国大会 ロゴマークについて

第2回大会の象徴として「とちぎ」らしさを表現しました。

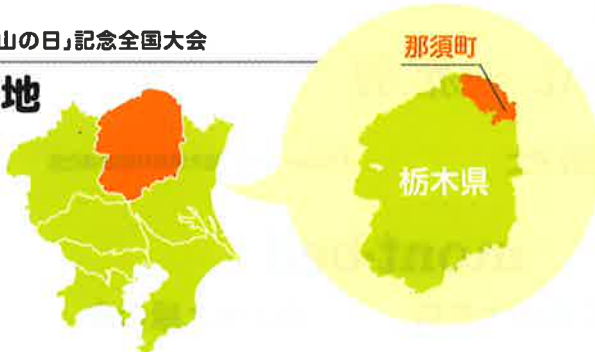
「山」のシルエットには私たちの生活に欠かせない、緑や大地、川(水)がデザインされています。

また、本県を代表する農産物である「いちご」、県獣「カモシカ」と今も那須の地に伝わる「白面金毛九尾の狐」伝説の狐の尻尾をモチーフに採り入れ、「とちぎ」ならではのデザインとなっています。



第2回「山の日」記念全国大会

開催地



第2回「山の日」記念全国大会実行委員会構成

(一財)全国山の日協議会、栃木県、那須町、警察庁、消防庁、文部科学省、スポーツ庁、林野庁、国土交通省、観光庁、環境省、栃木県市長会、栃木県町村会、栃木県「山の日」協議会、栃木県森林組合連合会、(公社)栃木県観光物産協会、(一社)那須町観光協会、(社福)とちぎ健康福祉協会、NPO法人栃木県ウオーキング協会、栃木県農業協同組合中央会、(株)下野新聞社

